

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成27年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	広島大学	整理番号	E02
プログラム名称	放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラム		
プログラム責任者	神谷 研二	プログラム コーディネーター	小林 正夫
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中間評価時の指摘項目に対して、広島大学大学院リーディングプログラム機構及び本プログラム関係者によって、継続的な改善努力がなされ、運営と評価の体制の構築が確実に進んだ。これらの努力は、学生の学習環境の大幅な改善につながっている。 ・ テキストと講義の英語化が進み、留学生も不自由なく学習できる環境が整った。また Scientific English などの英語の授業では、グローバルな活躍の場の状況を想定した実践的訓練が行われており、学生の参加意欲も高い。 ・ 所属研究科と本プログラムの単位互換が進み、学生の負担が軽減されてきた。過年度にメンターを務めた学生からも本年度の M1 学生の学習環境は大幅に改善されているとの説明があった。 ・ IAEA、国内行政機関、医療機関、企業などへの短期・長期インターンシップが展開されており、参加学生のキャリアパスの選択に対する視野が広がり、かつ具体的なイメージが持てるようになってきたことがうかがえる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 優秀な学生の獲得については、医師資格を有する日本人学生を採用していくという当初の目標が未だ達成できていないため、引き続き努力することが求められる。また、看護師や診療放射線技師などの保健医療系の学生をより積極的に受け入れること、放射線・原子力関係を含む他大学や関連学会などからも協力を得ること、他のリーディングプログラムの取組を参考にすることなどが必要ではないか。 ・ 学生の修了後の就職先はプログラムの成果を図る主要な指標になるので、インターンシップなどを通じた協力関係を基礎に、就職先となる企業の新たな開拓などに取り組んでほしい。 ・ 医療のみならず環境や社会へも影響を与える放射線災害復興学を明確な一つの学問として構築し、学生の学びの集大成とするとともに社会に発信していくことが期待される。 ・ 支援期間終了後の発展について、大学はプログラムとしての正式な学位授与の実現に向け、本プログラムを世界水準の人材育成プログラムとして、国際機関の認証の取得に至るまで発展させる道筋とともに、方針の検討を急いでほしい。 ・ 修了者が災害時にリーダーシップを発揮するためには、修了者間のネットワークをいかに活用するかが重要となると考えられることから、修了者のネットワークの構築に向けた準備が望まれる。 			